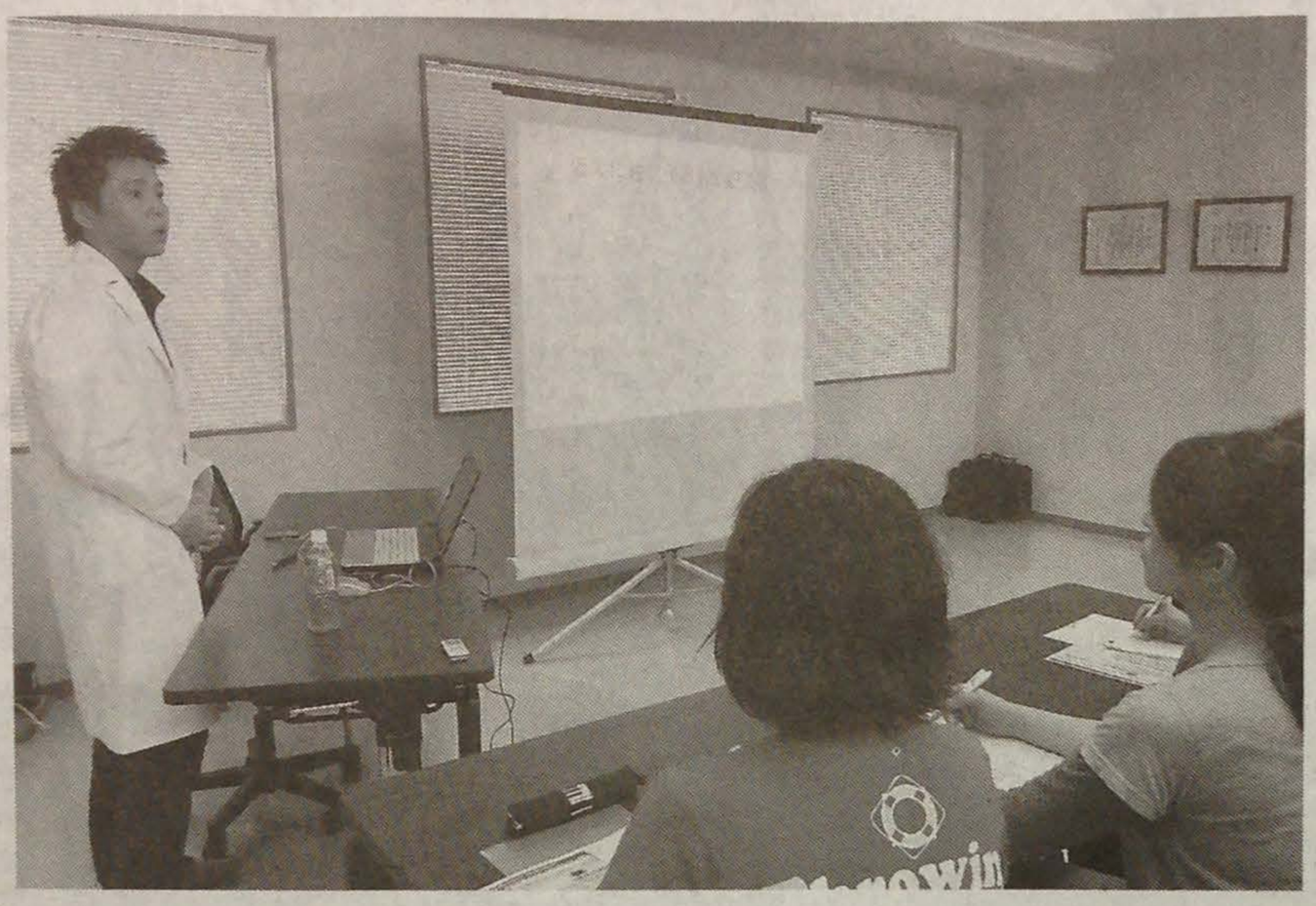
子どもの健康 遊び充実で

肥満防止など見据え

新たなプロジェクト発足

陸前高田

地域の遊び場不足緩和や子どもたちの肥満を防ごうと、陸前高田市内の医療、子育て支援、スポーツなどの団体関係者らによる「子どもの遊び場と健康昨作りプロジェクト」が立ち上がった。各関係機関の連携や既存施設・取り組みの活用も図りながら、子どもたちが気軽に遊び、健康保持につながる環境づくりを目指す。



プロジェクトの方向性などを説明する森山医長㊧＝陸前高田

東日本大震災では、市街地にあった公園施設が被災。被災を免れた学校グラウンドでも、仮設住宅が建ち並ぶ。遊びの機会減少により、子どもたちの運動量が低下して肥満が増加しているとの懸念が出ている。

肥満は内分泌系や心血管系、消化器系などの病気リスクを高める。県立高田病院医師や市内の各種組織などが連携して充実を図ろうと、立ち上げ準備会が4日に米崎町の同病院会議室で開かれた。

病院や行政、スポーツ、支援団体の各関係者18人が出席。同病院の石木幹人リハビリテーション科長は、子どもの健康づくりと地域の協力に関して説明。プロジェクト案に関しては、発起人である森山秀徳小児科医長が解説した。

森山医長は月1回ペースで開催されている市保健医療福祉未来図会議の場でも、震災後における子どもの肥満の変化について言及。「栄養と運動が大事。より時間をかけた対策が必要となるのでは」などと提起していた。

この日も肥満が病気のリスクを高める点などにふれたあと▽肥満児のみを集めるのではなく子ども全体を対象とする▽遊び場により運動量を増加する▽肥満対策のみならず遊びの満足度を増加する▽持続性を担保する▽子どもまたは保護者への栄養指導、教育を行う――などを掲げた。

その上で、遊び道具を積み込んだ「プレーカー」による遊びの場提供、運動量増加を目的とした遊びの実践、体力測定や身体測定による自身の体への意識喚起などを検討案として示した。引き続き、出席者との意見交換も行われた。

現在も震災の影響が続く半面、スポーツクラブ「総合型りくぜんたかた」をはじめ、工夫を凝らして運動機会や遊び場確保に取り組んでいる団体もみられる。新たな環境づくりにとどまらず、こういった団体との連携強化も話題に上った。

準備会では、プロジェクトを正式に発足させることも確認。森山医長は「まずは子どもたちが気軽に遊べる場を増やしていくことが大事。なるべく早めに動きを進めたい。関係団体と協議を重ね、具体策を固めていきたいと思う」と話していた。

自分の身を自分で

広田小で全校避難訓練

陸前高田市の広田小学校（松村仁校長、児童129人）は5日、下校時の地震発生、津波を想定した全校避難訓練を実施した。子どもたちは、災害時に自分の身を自分で守れるようにと、真剣な態度で臨んだ。

避難訓練は、児童の防災意識向上、非常時の対処法を学ぶ場として毎年行っている。

下校時間になると、子どもたちは玄関前に集まり、バスとグループに分かれ列。平野博人副「バスに乗る人はない、しゃべら戻らないを守りかり運転手の指って行動する歩く人は、地震の車が慌てる場定して、気をついてください」事項を確認した。

今回は初の試て、このほど市スクールバスに乗れた緊急地震速テムを使用。同

「糸紡ぎ」講座

参加者を募集

26日、三陸

平成25年度越区地域再生支援動事業、スピ（コマ）を使ったぎ」講座は、26午後7時から大役所三陸支所2

わたげ福祉会の秋田敦理事が同法人の活動な

A―FESTA」は15

写真・映像展示やオリ